

東北大学で学んだ「客観的な視点」の重要性

木村 啓明

私は、子供の頃に父が買ったパソコンと出会って以来、半導体分野の魅力に取り付かれ、その勢いそのまま東北工学部の門を叩きました。修士課程からは、半導体集積回路を手がけておられました。亀山充隆先生の研究室に配属させて頂き、当時助教をしておられました羽生隆弘先生にもご指導を賜りつつ、念願の半導体回路研究に従事させて頂きました。無論、研究過程で憧れだけでは乗り越えられない壁にぶつかるともありましたが、今思えば、それらの壁は非常に大きな糧になつたと感じています。

中でも、大きな財産になつたのは、「客観的な視点」から物事を見られるようになったことです。趣味の範疇では自分が楽しければ良かったのですが、研究開発となると、当然のことながら社会という客観的な立場から見て価値ある成果を上げなければなりません。そんな中、趣味の延長から半導体の世界に飛び込んだ私は、自分の考えの範疇からなかなか抜け出せず、先生方からの貴重なご意見にも素直に耳を傾けられないことも多々ありました。

しかしながら、相手を意識した研究発表や討論を繰り返し、相手が何故そのような意見を述べているのかを考えることで、少しずつ自分の研究価値を客観的に見る目を養っていったように思います。根気強くご指導頂いた先生方には感謝しきりです。

また、この「客観的な視点」という考え方は、研究に対するモチベーションを上げる上でも有用でした。私は「好きこそものの上手なれ」が持論ですが、実際問題、研究を進めていく上では楽しい如何に関わらず取り組まなければならぬ事柄があります。この

事実をどう咀嚼すべきかしばらく悩みましたが、ふと、今の自分の視点では楽しいと感じなくても、別の人から見れば楽しさがあるはず、と思うようになりました。不思議なもので、積極的に楽しさを理解しようと考えると、以前ストレスに感じていたこともモチベーションを持つて取り組めるようになったと感じています。

実は、現在勤める会社は在学時の共同研究先で、現在も在学時のテーマをベースに技術開発を行っています。近年は開発フェーズが商品応用に移り、品質保証など新たな仕事をする機会が増えています。しかし、「客観的な視点」を忘れずに、周囲の意見に耳を傾けつつ、モチベーションを持つて取り組むよう心がけています。



木村 啓明(きむら ひろみつ)
1975年生まれ
出身学部 / 東北大学工学部電子工学科卒業
現職 / ローム株式会社
関連ホームページ / <http://www.rohm.co.jp>

INFORMATION

2013年度
4月～6月
のご案内
18:00～19:45

東北大学 サイエンスカフェ・リベラルアーツサロン

**参加費
無料**

会場 / せんだいメディアテーク1F / 東北大学附属図書館(川内)
2013年度 4月～6月の東北大学サイエンスカフェ・リベラルアーツサロンのテーマ、講演者をお知らせします。(事前申込は不要です。)



4月12日(金)リベラルアーツサロン第22回
家族内パラドクス
～東北大学の家族臨床心理、『例外』からの出発
長谷川 啓三(東北大学教育学研究科 教授)



5月31日(金)サイエンスカフェ第92回
南北両極に広がるオゾンホールとその発見のいきさつ
中島 英彰(東北大学環境科学研究科 客員教授)



4月26日(金)サイエンスカフェ第91回
人は分子の集合体か?
～遺伝・環境・社会的要因のすべてを考慮した全人的医療～
栗山 進一(東北大学災害科学国際研究所、医学系研究科 教授、東北メディカル・メガバンク機構)



6月14日(金)リベラルアーツサロン第23回
アイヌ考古学
深澤 百合子(東北大学国際文化研究科 教授)

お問い合わせ | 東北大学総務部広報課 TEL.022-217-4977 ホームページ <http://cafe.tohoku.ac.jp/>

未来ある人材を育むために
東北大学基金へのご協力をお願いいたします。

東北大学基金事務局 | 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
☎022-217-5905 ✉kikin@bureau.tohoku.ac.jp

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kikin/japanese/>
東北大学基金 | 検索